



北海道建築技術協会（会長＝石山祐二氏）は11月16日、フィリピンのノボテルマニラアラネタセンターで開催されたフィリピン構造技術者協会主催の国際会議で「フィリピンにおける安全なコンクリートブロック造セミナー」を開催した。フィリピンに多いブロ

ック造建築物の、災害安全性向上に向けた技術協力を官民で推進する狙いがある。

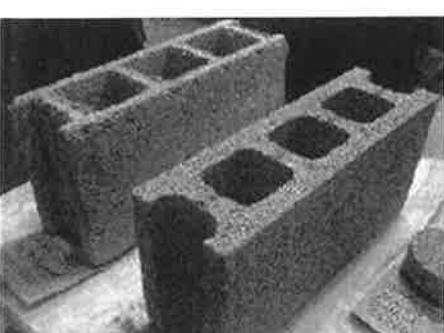
セミナーにはフィリピン国内外の技術者300名が参加し、日本側から国土交通省住宅局の杉田朋哉係長をはじめ、北海道建築技術協会の石山祐二会長、米澤稔常任理事、橋府龍雄委員が、日本における空洞コンクリートブロック（C H B）の規格や構造基準、高品質なC H Bの製造技術、C H B造の工法や建築事例等を紹介し、フィリピンの実情に即した安全かつ合理的なC H B造の改善工法を提案した。

またフィリピン側からは、フィリピン構造技術者協会（ASEP）のロナルド・サントス・イソン会長が、フィリピンでのC H B造に関する構造基準の現状や近年の地震被害、品質改善に向けた取り組みと課題等について説明。さらに相次ぐ地震被害を受けて11月、ドゥテルテ大統領がC H Bを規格認証対象品に指定し、C H Bの品質改善を図るよう政府

セミナーにはフィリピン国内の技術者300名が参加し、日本側から国土交通省住宅局の杉田朋哉係長をはじめ、北海道建築技術協会の石山祐二会長、米澤稔常任理事、橋府龍雄委員が、日本における空洞コンクリートブロック（C H B）の規格や構造基準、高品質なC H Bの製造技術、C H B造の工法や建築事例等を紹介し、フィリピンの実情に即した安全かつ合理的なC H B造の改善工法を提案した。

フィリピンでは戸建て住宅などにC H Bが広く使用されているが、大部分は簡便な設備で製造された低品質のC H Bで品質管理も不十分。またフィリピンでは、C H B造の強度確保に関する基準や検査体制等の整備が不十分で現地C H B造の多くは脆弱なため、地震や台風に対する安全性の確保が課題となっている。

このような状況を踏まえ、長年課題等について説明。さらに相次ぐ地震被害を受けて11月、ドゥテルテ大統領がC H Bを規格認証対象品に指定し、C H Bの品質改善を図るよう政府



日本製（手前）とフィリピン製のブロック

フィリピンでブロック造 産官協力でセミナー開催

北海道建築
技術協会

あるASEPの協力も得て、フィリピンのC H B造建築の安全性向上や日本の関連企業の海外展開促進を目的とした調査・技術検討等に取り組んでいる。



2013年の地震で被災した現地のブロック造住宅



ユニットの品質が粗悪であり強くない地震動でも壁面が崩壊